

# 看護部通信

2006.10.1発行 第12号

## 資格取得者や得意分野をもつ人を活かせる体制づくり！！

医療の高度化、分業で、看護分野でも資格取得や得意分野を持って活躍する機会が増えてきました。先のアンケート結果も踏まえ、2006年に「資格取得支援と活用」の基準を整備しました。新生会看護部で推奨する資格は“看護実践に活かせる資格”と定義し現在、介護支援専門員・日本糖尿病療養指導士・透析療法指導看護師・透析技術認定士・3学会合同呼吸療法士です。資格取得希望者への支援として、資格取得に関する情報、助成金制度を図書で閲覧できるよう準備しています。また、アンケートの結果から、望まれている得意分野、既に実践で得意分野を持って活躍されている看護師もいます。今後はクリニカルリーダーに沿って得意分野を養える土壌と、得意分野を持つ看護スタッフのコツや技を活かせる体制づくりを目指していきます。  
 【外来 師長 佐々木しのぶ】

### 得意分野の活かし方

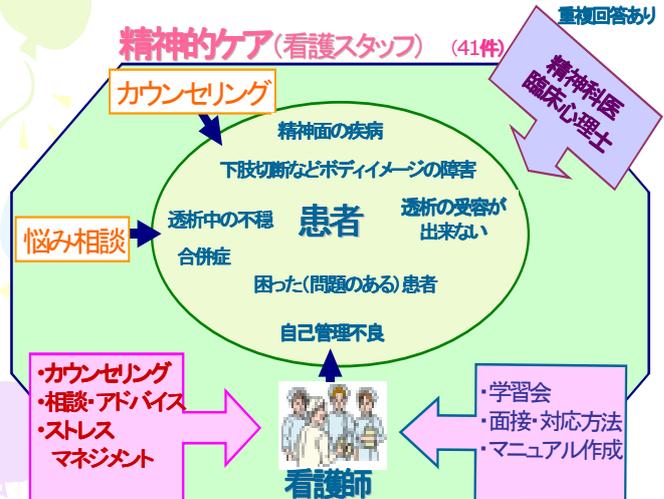
### ー看護スタッフへのアンケート調査よりー

【2005年7月】  
 (血液浄化センター 師長 松井みゆき)

Q1. こんな得意分野の人がいたらいいと思うことは？(看護スタッフ) n=93 重複回答あり

順位		(件)
1	精神的ケア	41
2	セルフケア支援	16
3	社会資源の活用	13
4	糖尿病看護	7
5	コミュニケーション・接遇	7
6	穿刺技術	7
7	アロマテラピー	5
8	家族看護	4

Q2. 得意分野を臨床で活かす方法は？ 重複回答あり



Q3. 看護スタッフ自身が得意なことは？

ー「すごいね」「上手だね」とほめられていることー 重複回答あり

1 穿刺技術 (9件)	
2 コミュニケーション・接遇 (9件)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>聞き上手</li> <li>コミュニケーション</li> <li>聞く姿勢(態度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>患者への声かけ</li> <li>接し方</li> <li>誰とでも笑顔で会話</li> </ul>
3 高齢者・認知症患者の対応 (8件)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者との会話</li> <li>高齢者の接し方</li> <li>対応困難な患者の接し方</li> <li>認知症・高齢者の対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>元気で笑顔</li> <li>安心できる</li> <li>癒し系でほっとする</li> </ul>

Q4. 得意なことがどのような時・場で活かせるか？



## 「先輩・同僚ナースの体験から学ぶ会」

【東海・東海知多クリニック主任 中尾幸子】

≪目的≫ 先輩や同僚の体験談を話す場を提供することで、お互いの思いを共有することができ、個々を大切にし、スタッフひとり一人が輝けるようにすることです。

≪1回目のテーマ≫ 『苦手な患者への対応』

≪学習会の方法≫ 1日目はグループワークを行い、2日目はグループワークの発表と、先輩ナース（2人）に体験談の発表をしてもらっています

この学習会でお互いの体験を学び合うことで、先輩・後輩の垣根をこえて、お互いを理解し、更に連帯感を持つことができたと思います。また、みんなの表情が更に生き生きとしているのが印象的です。



### 【参加者の感想】

- ☆『人間が好き』ナースとしては大事な点だと思った
- ☆患者の良い面を見つけ、好きになろうとする姿勢を見習いたいと思った
- ☆つらい時、皆が支えてくれたから乗り越えられた。仲間っていいなと思った
- ☆患者を変えるのではなく、自分を変化していくことが大切だと思った

### 【体験談発表者の感想】

- ♪私の体験談が励みになったと言ってもらえ、自信となり、これからも頑張ろうと思った。
- ♪みんなの役に立て達成感が味わえた。自分の振り返りになった。

## 院内感染予防の知識をチェックしよう！

【病棟 師長 洲崎英子】

★練習問題（下記の中からあてはまる言葉を選んでください）【答えはP3下部に記載】

1. 退院後に発症しても、病院内で接種された微生物によって起こった感染症であれば（①）という。
2. 病院感染対策の目的は、患者や医療従事者等に対する感染のリスクを最小限にし、感染にかかわる（②）を削減することである。
3. （③）予防策は感染症の病態に関わらず、全ての患者のケアに際して適応される。最も基本的な重要な手段は（④）である。
4. 感染経路別予防策は、感染力の強い、重篤な病態を引き起こす感染症に対して用いられる。感染経路別予防策には、（⑤）予防策、（⑥）予防策、接触予防策の3つがある。
5. MRSA（多剤耐性黄色ブドウ球菌）感染症は、（⑦）予防策を適応する。
6. 結核・水痘・麻疹は、（⑧）予防策を適応する。医療者・家族のマスクは（⑨）を着用する。必要時、患者のマスクは（⑩）を装着する。
7. インフルエンザ・風疹は、（⑪）予防策を適応する。
8. エイズ・B型肝炎・C型肝炎は、（⑫）予防策を適応する。
9. 血液などの体液は全て（⑬）とみなして取り扱うべきである。
10. 床上の血液を手袋をはめ、（⑭）をしみ込ませたガーゼで拭き取った。手袋をはずした後、（⑮）をした。

- a.塩化ベンザルコニウム   b.次亜塩素酸ナトリウム   c.N95   d.市中感染   e.病院感染  
f.感染症あり   g.不必要経費   h.サージカルマスク   i.標準   j.空気   k.飛沫   l.接触  
m.手洗い   n.消毒   o.院内感染対策委員会

# ストレスマネジメントとユーモア

看護部では2006年度の目標に、働きやすい職場づくりとして『職場のストレスマネジメント』『笑顔のある職場風土づくり』を挙げました。SNFの秋の講演でも、これらに関連のあるテーマを取り上げる予定だそうです。会長から一言、ご案内します。  
【看護部長 岡山ミサ子】



今回、日々の生活や仕事に**笑いとユーモア**を取り入れて職場の活性化に役立てればと思います、講演会を企画しました。  
【SNF会長 久保田万知子】

講演日時：2006年10月29日（日）9：30～12：00

講演テーマ：「**笑いと職場の活性化**」

講師：矢野 宗宏先生 ユーモアコンサルタント

## ★新生会一日看護体験★

2006年8月5日に、新生会一日看護体験を行いました。参加者は新生会第一病院の看護学生8名と午後のみ外部の学生4名の参加でした。患者教育場面の見学、家庭透析患者さんの体験談、呼吸器の仕組み・使い方、緊急時の対応、口腔ケア・褥瘡ケア、プリセプターシップの実際、透析患者事例検討会に参加し、最後に研修を通しての感想や看護師像について話してもらいました。仕事の時の緊張した様子と違ってリラックスした表情、雰囲気の中で一日でした。皆さんに、新生会の看護の魅力を感じてもらえたと思います。  
参加者の声を紹介します。  
【在宅透析教育センター 師長 宮下美子】



Aさん：「家庭透析患者様が夫婦で力をあわせている姿を見て、また事故防止のためにも看護師の存在が大切だと思った」

Bさん：「呼吸器を体験して、患者様の気持ちを体験することができた」

Cさん：「透析のことがわからなくてもできるので、プリセプターのいる病院はいいなと思った」

Dさん：「事例検討会では、現場に出て一人ではなく、チームで考えていくなと思った」

Eさん：「看護チームが整えられていると思った」

家庭透析歴34年の久保田さまご夫婦の体験談をきいて

## いきいきナース

仕事と家庭を両立させ活躍している、在宅透析教育センターのベテランナース、**村瀬智恵美さん**を紹介します。

【在宅透析教育センター 師長 宮下美子】

### Q1. どのようにリフレッシュしていますか

私は高校を卒業後上京して、はや20数年経ちますが、毎年夏に帰省しています。家族ができてからは、家族とともに（夫はいやかも？）。故郷はこの時期、山や川、田んぼが緑でいっぱいになり、空は青く、夜になると星で空一杯になります。そんな自然の中で育った私は「田舎は不便で嫌」と口では言いながら、この風景と元気に暮らす両親の姿が自分の癒しになっているのです。



### Q2. この夏はいかがでしたか？

今年も故郷で、高校時代の友人に家族で会いました。その友達と〇ちゃんはどうしてる？」「〇〇君と肝試しに行ったよね」と昔話で盛り上がった夜、現役高校生の娘から「お母さん達ってずっと友達なの？いいよね、大人になっても高校時代に戻れて。」と言われ、何気ない行事が、今年は娘にとって「古き友達のよさ」が伝えられた夏休みになりました。

【故郷、津和野でリフレッシュする村瀬さん】

これからも家族とともにリフレッシュしながら、ベテランパワーを発揮してください。

<P2答え> ①e ②g ③i ④m ⑤j ⑥k ⑦l ⑧j ⑨c ⑩h ⑪k ⑫i ⑬f ⑭b ⑮m